



<https://www.oakv.co.jp/>



**オークヴィレッジ高山
(Heart of Oak)**

〒506-0101 岐阜県高山市清見町牧ヶ洞846
TEL: 0577-68-2220 ※駐車場あり
営業時間: 午前9時30分～午後4時30分

木工芸の聖地に足を踏み入れる

近くの幹線からオークヴィレッジのゲートを抜けて坂道を登り始めます。すると、風にそよぐ木々、小川のせせらぎ、やや湿気を含んだ大地から森の香りが漂ってきます。ライターもカメラマンも、取材スタッフ全員が思わず深呼吸。ホッと穏やかな空気が漂います。

まず目に飛び込んでくるのが、土壁が圧倒的な存在感を放つ建物。「これは、スタッフみんなで作ったものなんです」と案内の村田夏奈子さん。現代的な建築でありながら、どこか懐かしさを感じさせる設計は、まさにオークヴィレッジの真骨頂と言えるでしょう。実はここはラウンジ・ショップとなっていて、文具やおもちゃなどのほか、テーブルやイスなど美に多くの家具が並んでいます。さすが高

山本社ならではのといったスケール感で、実際に制作する際の木材なども展示されており、木工芸に適した国産の樹木の種類を学ぶこともできます。

隣接する「せせらぎラウンジ」は小川や森を身近に感じることができ、とても開放感にあふれるスペース。初夏の新緑や秋の紅葉の美しさはもちろんですが、積雪が解けて露の臺（フキノトウ）や水芭蕉（ミスバショウ）が顔を出し始めて感じられる、春の訪れもまた素敵です。四季折々の変化とともに、オークヴィレッジの手掛ける家具や建築を五感で体感することができますというのも嬉しいところです。

さあ、いよいよここからモノ造りの心臓部、オークヴィレッジの工房へと案内していただきます。

ギャラリーに掲げられた一枚のパネル写真。右端のオークヴィレッジ会長の稲本正さんを始めとする創設メンバーは、「オリジナル・ファイブ」と呼ばれています！

オークヴィレッジが森の中の木工房と呼ばれる理由とは……

オークヴィレッジのホームページに創業の理念が掲げられています。まずは、その格調高い文章にぜひふれてみてください。

オークヴィレッジは、おもちゃや文具、家具をはじめ家も自社で開発・設計し、国産材にこだわって制作まで行う木工房。家や椅子、テーブルも、できる限り金物を使わず、伝統的な「木組み」で造り上げるため、その担い手である家具職人、大工や棟梁も自社で育成しています。

私たちのモノ造りは手間と時間がかかります。それは、効率や利益よりも大切にしたいものを追究しているから。1974年、飛騨高山の地で創業した時に掲げた3つの理念を、今も守り続けているからにはかなりません。

日本に暮らす私たちは、日本固有の気候風土を背景とした豊かな植生の森に恵まれ、森と共に生きてきました。そして住宅はもちろん、生活で使うさまざまな道具も木で造り、暮らしと自然が一体になった「木の文化」を育んできました。しかし、

20世紀中頃から始まった大量生産・大量消費、鉄鋼やプラスチックなどの工業製品の台頭によって、先人より受け継がれてきた木の文化・技術は衰退していく傾向にありました。こうした変化に危機感を抱いた5人の若者が集まり、日本の木を使った木工房「オークヴィレッジ」が生まれました。その始まりにあるのが、日本の「木の文化」を拠り所とした持続可能な社会づくりへの思いを表した3つの理念です。

「百年かかって育った木は百年使えるものに」

「お椀から建物まで」

「子ども一人、ドングリ一粒」

創業時から今も変わらず、オークヴィレッジの企業活動、モノ造りは、この3つの理念に沿って行われています。

